プロレタリア文学における国際的主題について

宫本百合子

青空文庫

『改造』 十月号に藤森成吉が 「転換時代」という小説を書いている。

時代」は非成功的作品にもかかわらず種々の発展的な問題を含んでいる。 て考えこんだ。 自分は非常な興味をもってよみ始め、 ――感服したのではない。 よみ終ってから何度も雑誌の頁をパラパラめくっ 不服だった。 大いに不服なのだが、 その問題 この 心の積極 転

換

ロレタリア文学において、 国際的主題はどう扱われるべきか。これが先ずその主な課

題の一つなのだ。

性が自分の注意を捕えた。

ろうか? つものだ。 レタリア文学というものはない。ところがプロレタリア・農民は日本にだけいるものだ 本質からいって、正当なプロレタリア文学は基礎的な要素として根にひろい国際性をも 搾取者のいるところ、 何等かの形でプロレタリア・農民の階級的闘争を直接 そうではない。 必ず被搾取者としてのプロレタリア・農民が南アフリカの隅に ソヴェト同盟だけにかたまったか? そうでないのは ・間接の主題としないプ 知 れ てい

までも存在する

圳 に 体 لح 性 球 各 つ 0) は 々 7 上 あ 0) は に る 手 持 黒 点 に 坊 違 握 つ だけだ。 も つ る 白坊 7 鋤 11 0) も 形 るだろう。 世 な が 界 \ <u>`</u> 違うように、 0) ブ 世 が、 ル 界 ジ 0) 階 Ξ ブ 級とし 機械 ア 口 ν が 地主と自分たちとの境に。 タリア て搾取 違うように、] 者 1 に対 農民として、 各 U た時、 玉 0) 闘 ブ 争 ただ 口 0 細 V タ 部 本 1) に 7 わ \mathcal{O} た 玉 境 農 る を 民 具

把 世 る、 ん 握 . 界 ば 解 経 ま 放 個 済 た 表 運 々 恐慌 は 現 0) 動 È 作 九 0) そうい れ と 州 品 7 \mathcal{O} が 0) 炭坑 内 11 う国 れ 玉 直 ば、 罷業 的 接 関 に 際 を描 は 情 基 係 本 12 亀 勢 的 お に 1 戸 な 0) つれ 1 て 解 小 て、 (,) ると 釈 ž てプ に プ 1 して 紡 お 口 口 7 V 績 V ŧ 7 タリア 工 タリア文学は発展 場で は + そ 分国 0) 闘争する 農民 主 際 題 が 的 0) な 政 は 女 作 治 つ 工だけ し き 7 品 的 攻勢 ij 来 と 資 を描 た。 V え 0) 本 展 主 だ い 望 義 か 7 ら、 第 0) 11 も る 期 ょ す 0)

界 織 0) П を 0) 局 具 農村 求 レ 部 体 タ 的 め 的 恐慌 1) 現 に るように 7 象 11 だけ 作 1 へまできっ 家 直 を捕 せば は な 信 つ えた た 州 こうであ ちり \mathcal{O} 農夫を描 0) 繭 結び では 安 価 る。 つけ、 を日 足 ij 例え くとする。 な 本 ·全体 V) ば そ 0) 信 関 州 0) 言葉とし 係 繭 わ 0) に れ Ш 安 価 お わ 奥で繭安 してその V れ 0) 理 プ て主題を理解 由 口 と結 小 V 価 説 タ 0) 果と リア た 0) 中 80 に、 に 作 に し なけ 書 家 貧 引き か 窮 \mathcal{O} ħ れ 眼 ばならな な が 組 11 11 合 7 だ 0) 世 そ ろ、 組

ということだ。そういう見通しなしに、今日の大衆生活の中からのどんな主題も正確に、

唯物弁証法的につかむことはできないのだ。

リア大衆、プロレタリア作家に限ったことじゃない。 ところである人は、云うかもしれない。 今日国際的な関係にあるのは、 ブルジョア文学だって同じことだ、 なにもプロレタ

_

と。

た日常生活とともに盛に国際的要素が加わって来た。 「勝敗」 なるほど、 の中では一回分がフランス化粧料の名、 ブルジョア文学には、 投資者、 消費者としてのブルジョアのヨーロッパ化し ヨーロッパ画家の名その他で埋められ 現に菊池寛が書いている連載 小説

日があった。

それを主題としている点では一見国際的であるらしく思える。 河与一の南洋紀行。 ブルジョア探偵小説の一部としてのスパイ物語は正に国際的舞台を背景としている。 吉行エイスケの中国もの。 それぞれ、 確に日本以外の外国をとり入れ、

タリ

ア革命との

必

然的

連関

では

な

1

景を 国苦 列 異 工 \Box 強 国 では、 力に 作 植 的 グ 品 民 な 乞食。 そういう諸作 口 に 地 目 盛 新 風 政 景だ。 る場 策 しさだ。 工 の行きづまりに 口 合、 資本 チ 作者 ツ 品 九三一 が、 主 ク 義化 で にとっ あるところの 何 され ょ 年 を主 て主要な つ \hat{O} た海 て変っ 眼 中 とし 玉 港 0) 植 都 精 ただろう。 日 て外国をとり入れ 髄 常 民 市 風景は 地 は 12 中 あ 国 つ 銀 だが、 確に蒋 「売笑婦だ。 7 座 に 層 あ グ 吉 7 るとは 介 口 行 石 1 テ 今日 る エ のブ ス 種 1 か ? ク 類 ル 0) ス ジ で 中 ケ 0) 変 玉 あ が Ξ 第 ح る 7 中 つ 世 革 に、 た ところ 玉 現 命 \mathcal{O} 代 日 主 の 常 П 0) 中 影 題 中 玉 風 0)

習慣 するところに と違えば違うほど 説 が 明 す [∕]るま 面 的 でもなくエ 異 に 誇 国 ر ر 趣 示されることを意 味 11 を根とするブ 丰 L かも ゾ チ 民 ッ 族 クだということは、 ルジョ 的 味 でする。 な 違 ア文学 \overline{V} その 従って、 もの Ò 玉 際的 を決定的 ある ツ 要素 ポ 民族 ンは の自 0) な 特 アル 中 性 然 玉 的環境、 が ファとし、 と、 あ 中 玉 は 伝 統 オメ ア メ 的 ガと IJ 風 力 俗

む ヤ 異 つの イ 帝 玉 玉 条件的 う 趣 民 味 義 は 族 0) 事実だけをさも決定的 主 フ 義 直 ア 0) に ツ 民 シ 目 的 族 Ξ 化 は 主 義 に 結 0) つれて、 武 局 に 器としてつ なものらしく全面にひろげて強 お このブ 7 7 日 ルジョ 本 か 人は わ れ H るものだ。 ア文学中 |本人! $\dot{\wedge}$ 中 なぜなら、 玉 際的 国 調 人 は ら 中 支配 各民 国 主)族間 題をもちこ 権 力 のプロ が

るらしく見えるブルジョ タリア・農民としての世界的連帯を切ろうとするところにある。 をファ ツショ の立場から主張する文化的 ア民族主義文学だ。 下地を最もよくつくるのは、 中国は 中国、 国 際的 日 主 本は 題 ょ 日

るために役立 没落期に入ると一 ブルジ ョア勃興 緒に、 (期に、 急テンポに侵略的帝国主義のデクになり下り それは享楽的なブルジョア文化の消費者 ブルジョア文学の異国趣味は植民地発見熱の反映とし つつある の猟 奇癖をたん のだ。 そ現 のうさせ れた。

背景を求めて なった。 ハルビンへ出かけていた。 (追記 • 日本軍部による張作霖の爆死事件につづく侵略 すると、 奉天のパチパチが起って、 あ 0) 辺 一帯が

司

次

郎正

とい

う大衆作家がある。

彼はよみ物提供の種をさがしに、

異国

情

調、

国際的

中 シア人たちである。 何 異 国 イスカヤ街 というかと思うと「支那人の心情は根本的に獣である。 .情 調を求め のような通りはこの野蛮人を通らせなかった」 て来てい か つてハルビンが帝政華かなりし頃はロシア人は支那人を鞭 た群司次郎正 は · 一躍、 「ハルビン脱出 これをよく知ってい <u>:</u> 記 の筆者となった。 る で打って のは 文 口

中に入れていない。 奉天に。 <u>َ</u>رُ チパチの起ったことについて日本帝国主義に内在する経済的・ 彼は無智な軍用ペンをふるって、 ブルジョア異国趣味から狂気的民族 政治的理 由 も眼

る。

主義へ飛躍しているのだ。

主義 この実例だけでも、 0) 泥 沼にはまってついにファッショ化するものだということが十分明 ブルジョア文学の領域 次内で、 異国 趣 味を基礎とする 国 瞭に示され [際主義: **は** 民 族

オロ 資本主義のイデオロギーはそれが必然の過程として植民地搾取を包含する帝 ギーである限り、 本質的に「インターナショナル」 は理解 し得ないものな のだ。 国主義イデ

三

ところで、 ではプロレタリア文学は国際的展望において民族性の問題をどう取扱って v

るだろう?

階級的インターナショナル 行うための、 決して、それをブルジョア文学におけるように最後の決定的なものとしては認め 具体的 清勢 0) 個 の闘争を強固にし、その連帯的活動を活々させ、より効果的に 別的条件としてだけ、 民族性は問題となって来 る。 な

どんな場合でも中国は中国、 日本は日本ではない。 中国はこうで、 日本はこうで、 それ

ぞれ いう観点からとりあげられ の特殊性は、 互に 国際的階級闘争の全場面に対してどういう役割を持つもの て来 る のだ。 か。

だから、 各国 [の階級] 闘 争が 玉 際的連帯を緊密にするにつれて、 文化活動の国際性もこの

頃ますます拡大されて来た。

際的な共通な問題となっている。 リカでも、 リア文学の大衆化 文学活 動上 ド イツでもソヴェ の 種 の問題にしろ、 々 0) 問 題、 ト同盟でもプロレタリア文化・文学活動に従うもの 例えば創作の唯物弁証法的方法という問題にしろ、 日 本 Ò 「ナップ」 が提起しているば かりではな プロ の間 (V レタ に アメ 玉

いえば、 従して農民文学の問題をとりあげる。ソヴェト同盟やドイツで創作の唯物弁証法的方法と 日本のプロ こういう問 又それに太鼓をたたく。定見のないオッチョコチョイ奴、 レ タリア作家のざまを見ろ。 .題が起るごとに、民主主義作家や反動作家は口を揃えて悪口をいって来た。 ハリコフ会議が決定したとさえいえば、 と。 それ に追

然し、 この 惠 口は彼らの、非プロ レタリア的な世界観の曝露として役立つだけだ。

際は十年前のものと性質をすっかり変えている。 過去十年間 に農村恐慌は徐 々に激化して来た。 そして、 農民とプロレタリアー 今日の世界の農民解放運 トとの結合の必要 動 の実

る

題として、

又国

際的

重要性をもって

, ,

る

のだ。

段階 連帯 に お 的 11 闘 て農民 争 0 必要が の文学が、 今日ほ 世 どは . 界 0 プ っきり示され 口 レタリア作家、 ていることは 農民作家 な によ か つ た。 って見直 そ 0) 進 展 た . 新

は当 然な 0) だ。

おけ 創 ブ 作 口 任 上 タリ 務 0) ぞ、 唯 ア文化連 物 最 弁 も全 証法 的方法 盟 面 の結成 的 に、 の実践 は、 最 ŧ ドイ 現実的にはたしてゆくため 的 探求は、こういう種 ツにもアメリカに も 々 0) 0) 玉 日本にも行 理 際 論 的 お プ ょ 口 び わ V 技 れ タリア文学 術 7 獲 1 得 0) 間

観点 つまり、 から描写するに当って、 人 人の、 或 1 は 集団 具 体的 とな つ 条件として在る た農民、 学 生 闘 争 労働者をとらえて、 0) 種 0) 可 能 性 プ 口 矛 盾 レ タリア的 木 難

 \wedge

々

運 展 動 性 全般と を 相 関 的に 0) 関 係 も ň に お なく洞察 1 7 観 表 現する技術として、 同 時 に そ の 総和とし その わ れ 全 わ れ 局 に 面 唯 を 物 弁 内 証 玉 法 的 的 方 玉 法 際 0) 的 獲 解

得は 大切 な 0)

放

進

題が プ 玉 口 際 化し タリア て来たば 農民 か 0) l) 解 では 放 運 な 動 \mathcal{O} 玉 際化とともにプロレ タリア文学理論 上 技 術 上 の問

口 タリア文学における主題 の多様性の一 部として国際的主題が 現れはじめた。

清一 森成吉の うたった。 ンミューン、 脚本では、 郎 Ó 「転換時代」は、 「赤色戦線をゆく」、 小説に すでに村山知義 ソヴェ 橋本英吉の 1 同 盟 主題に対して、 0) 0) 「市街戦」 「十月」その後 中條百合子のソヴェト同盟に関する種 「全線」 「勝利の記録」などがある。 村山 層の拡大を予告している。 の社会主義建設、 知義の短篇小説、 朝鮮、 報告的旅行記とし 詩は、 中 々 の報告と作品。 国 0) 同志に 多くパリ・コ て勝本 つ 1 藤 7

化 書中に云っている。 と朝鮮等を背景に、 これまでの国際的主題を扱ったプロレタリア作品は大抵中国又はドイツ、 国を中心として国際的に観察していたところが 革命力の昂揚などを描破しようと企てた。」 戦後世界資本主義の第三期、 「ヤング案のドイツと五ケ年計画のロシアと恐慌日本とソヴ 大恐慌、 「転換時代」で、 大建設、 対立激化、 作者は地図入 ソヴェト同盟 ファッショ 工 (I) 1 ·支那 Ó 前

新 世界の黎明として今日の世界を描こうと予告されているのだ。

兀

遍でも外国へ行った作家は、 こういう思い出を持っていはしないだろうか。

プロ あ 世界を掌 つつあるドイツを見ているとしたら大小説を書きたくならない方が ij 外 国 ĺ 暮 か タリア作家 も な 握 ン ヴ Ō 1 したような か。 或る日、 エ が、 1 ブルジョ 同 国際 激 遠く島国 盟におけ しく全世 ア作家でも恐らくそうだろう。 小説が書けそうな、少くとも書いて見たい 日本 る大建設 .界の動きというものを身辺に感じ、 の客観情勢を展望し、 の地響きを足に感じながら目 中 まして確然 国 0) 新 不思議, 興 とし 何 前 衝 力を鳥 動 に か立ちどころに、 た世 なくら 大 を感じたことが 危 瞰 機を 図 界観をも 的 経 験 把 握

熱情は藤森成吉をとらえた。

実際 0) 種 印 0 熱情 象はどうだろうか。 は前 書にあふれて 総 体的 いる。 な不満だ。 ところで、 「転換時代」 第 部が わ れ わ れ に与えた

だろうと思ったの 前 書によって、 に、 われ だんだん読んで行って見ると、 われはこの 小説 から強烈に世 界 違うものがある。 の動き、 熱、 匂い ベル をぶっつけら リ 在 住

ħ

る

*ر*کہ

か

V

ひろい

不満だ。

上手とか

下手とか

, ,

うのと違う。

本人が とケンカしたり、 「労働な 者と一 集まって 緒に 個 引っ 人的 い ないと、どんなに淋 越したり、 な問題を中心として議 人の仲間が引っ越すとその仲間が遠い $\ddot{\iota}$ V 論 も め したり、 か と痛感する佐々木をこめて 居住 の地域を問題 郊外 に の引 たり、 群 越先ま 宿 0) \mathcal{O} 日 主

これは非常に有益な、

で行って見て、 古い党員の下宿主からリンゴを貰って皮ごとカジって「何て同志的な雰囲

気だ!」と感じたり

れ、 勢だけ切りはなして説明的に描 イツの選挙のことも書かれ もちろん、 不分離な力としては書かれ そればか りが書かれてはいない。 ているのだ。 7 かれ、 1 な **(**) 日本人群の日常生活の描写のうちへ滲透し、 が、 革命力の高揚しているドイ 第二回世界ピオニェール大会のことも、 ツの情勢はその情 盛込ま ド

忙し て非現実的な生活だけが浮びあがるのだ。 いうものは消える。 読んだあとの印象では、 い人間 同志なら二の次、三の次になる問題を論議している一 かえって、 従ってドイツ・プロレタリアート・農民の巨大な燃える攻勢と かたまり、 うるさいほどに互の日常生活に 団の日本人の理屈っぽく 口を入れ あって、

があったことは明かだ。 物弁証法的にこなすこなしかたに、 決して、 作者は、 どうでもいいと書かれた作品ではない。 「その観点や構成は全部唯物弁証法的に意図した」と前書でいっている。 興味ある 穿 鑿 だ。何故なら、中條百合子がこの間うち『改造』 或いは主題の唯物弁証法的把握そのものに何 そうとすれば、この巨大な主題を、 かの不足 唯

ず、 法 に とってどんな意義をもつもの この点でも ソ 小説 ヴ 工 失敗 の形 1 同 で、 して 盟 0) 紹 信吉という人物を、 1 る。 介 小 説 筆 者は 「ズラか かを書く ソ ヷ った信吉」 Ō) エ 主題に対して非 に、 \vdash 同 盟 目 を書き、 的 0) 0) 大 建設が世 大衆性に 強物: 未完だが、 弁 適応 · 界 プ 証 法 的 口 U やは た に タリ 出 物 語 V) ア 帷 7 l) V 0) 物 形式 弁 \vdash 証 農民 を選ば 法 的 方

五.

周 密 な 用意と研究を必要とすることだが、 「転換時 代 にあらわ れ 7 (,) る 唯 物 弁 証 法 的

把

握

上

0)

失敗

従、

先ずどこか機械的な点で目立

う。

的 なことがそれぞれ 書くのに、 な 書 部分も洩らされ か れ た点からだけ見ると作者は、 社会的 みんな主 に大きい ては V 一題と関 事件ば け な V) 係 つ と。 か し こう考えたように見える。 T り書くの いる。 又 は間違ってい 積 極 的 な面だけが る。 資本 あらゆ 重 主義第三 一要では、 る 日常 期 な 的 な 0) 11 世 സ് 消 界 極 を

れ 7 酒 いる。 井とそ の宿主の婆との コンムニストでも決して善玉揃 衝突、 工 ルゼという人物などはそういう作者の見とお いではない。 「何しろ沢山 の党員だし、 古 で 扱 11 歴 わ

史をもった党だからタマには蛆虫も湧くんさ。 南京虫はどこにでもいる。

織され、 に示され くとも第一部には、 ムニストが善玉揃 た消 世界プロ 極 0 V 場 タリア解放 蛆虫も時には湧かせつつドイツの党がどれだけ大衆によ 面と結び V でな つ のために闘 いということはその限りにおいて真実だ。 , , て関 ĺ١ ては って 1 いるかとい な **(**) う積極的な点は、 U 有 って強 か 機的 力に この少 組

固定 だチャンポンに一 つの した姿で対立させることでないのは自 主題を、 篇の中に置くことでもな 唯物弁証法的に把握するということは、 V) 旧だ。 社会的な大きい 積極的な 事件と日常的些 面と消極的な 事 面 「とを、

の通 衆 印象を与える失敗に陥っている。 \ <u>`</u> とってこんなAB の革命的 月号の つ た関係にあるかという基礎的な階級的位地が、 高揚とどういう関係にあり、 ナップ』 C は 理屈としては問題外だろう。 に _ |創作における唯物弁証法的方法に就ての覚え書| 証拠には、 か つまた遠い故国 あの一 だが、 団の日本人の実際生活が、 弁証法的具体的に描き出されてい 実際の結果はそういう機 日本の階級的進展とどういう血 を書 ル \overline{V} た人に 械 IJ 的 大 な

群 の日本人は、 切りはなされて浮き上っている。 大衆的な行為、 階級闘争への結びつ

末

な

事

伜

そ

0)

もの

としてのこる

のだ。

教える

のが

ょ

<

ゎ

か

る

性が きの ょ 批 i) 評 広 実際過 0) ひとり 汎 た め な、 程 0) で のうち ょ 批 i) 評 に 能 0) わ É ような 動 か 的 現 るようには な れ 個 社 たり消えたりする 会 人 的 に 事 関 書 伜 す か Ź れ 0) 批 7 判が 部 1 数 な Ш 構 出 \ <u>`</u> 人 の 成 7 分子として吸収され 来 坐 日 Ś つ 本 7 人 それ 喋 各 つ 々 7 ゆ \mathcal{O} え些末 持 11 る。 つ 階 ず、 な グ 級 日 ル 的 どこまで 常 積 的 プ 極 事 内 性 件 で だけ、 も 消 此 極

こう書い て来ると、 転 換時 代 第 部が そ 0) 失敗にお 7 て、 多くのことをわ れ わ れ に

どだ ヷ V エ \vdash プ 司 口 盟 0) プ タリア文学におけ 口 V タリア文学はそ る 国 際的 0 素 晴 主題 ら には 1 種 達成に 々 0) 困 |難をも も か か つ わ 7 らず、 **,** \ る や ŧ はりこの 0) だ。 玉

際的

主

題

を

扱

つ

た

ر ر

11

作

品

のないことは

関

心

 $\bar{\mathcal{O}}$

的

となって

7

唯 0) シ 地 物 旅 日 球 弁 行 化 Ŀ 証 記 0) 法 た世 情 的 見 勢は、 方法 聞 界ブルジ 記 菂 で 書かれ 二つ 論 文は 0) Ξ らある。 世界、 ア た小説は、 0) 過渡 だが、 プ 的 口 ソヴ 協 V 労との タリア ほ エ 6 も 1 対立 同 0) 農民 0) 盟でもまだ出て をますます激化させ 階 級的 インター インター ナシ 1 ナシ \exists な ナ V 彐 ル 0) だ。 ナ \mathcal{O} あ 結 ル 然 0) 成と、 観 点 か ァ \exists ら

プ

口

タリア文学は、

当然、

内

国

的

主題をいよいよ具体的に国際的

なプ

口

タリ

ア

時代」に類する作品、 民解放運動全般との結びつきにおいて深化させて行くとともに、一方、 又は、 紹介的役割をもつ「ズラかった信吉」の更に数段成功的な作 次第にこの 「転換

品が現れ

る可能が

十分ある。

プロレタリア文学の領域における主題の多様化にある功献をする時代が来ていることはす でに明かだ。この希望と見とおしで、 内国的主題にお いて国際的要素が強まるばかりではない。 われわれは一層活溌に、 国際的主題そのものの発展が、 達成へ向っての勝利的自己

主題はどんな歪んだ形で取扱われているか。 .何記。ファッシズムに対して十分の抵抗を持ち得ない社会民主主義文学の中で国際的 それについては別稿で書こうと思う。

批判を必要とする次第だ。

[一九三一年十月]

青空文庫情報

底本:「宮本百合子全集 第十巻」新日本出版社

1980(昭和55)年12月20日初版発行

1986(昭和61)年3月20日第4刷発行

底本の親本:「宮本百合子全集 第七巻」河出書房

1951(昭和26)年7月発行

初出:「読売新聞」

1931(昭和6)年10月16、17、20~22日号

入力:柴田卓治

校正:米田進

2003年1月16日作成

青空文庫作成ファイル:

ました。入力、校正、制作にあたったのは、 このファイルは、インターネットの図書館、 ボランティアの皆さんです。 青空文庫(http://www.aozora.gr.jp/)で作られ

プロレタリア文学における国際的主題について 宮本百合子

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL http://www.aozora.gr.jp/

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL http://aozora.xisang.top/

BiliBili https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/ ※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。 http://tokimi.sylphid.jp/